

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>計画：事業地の重度障害者が電動車いすを利用することで行動範囲が広がり、就労、教育等の場に参加する機会が増加すること。</p> <p>達成度：受益者への車椅子提供前後の聞き取りから、外出の機会が大幅に増加し、就労や教育への参加にも活用されていることが認められた。</p>
(2) 事業内容	<p>1. 電動車いすの収集 (2016/3・4・2016/7・8・9・2017/3・4)</p> <p>日本国内の障害者団体、電動車いすユーザー、車いす業者への広報活動を強化し周知を図り、また車いす業者の全国団体である日本車椅子シーティング協会の組織協力も得て、当会が135台の電動車いすをトラックや当会所有のリフトカーで収集した。</p> <p>2. 電動車いすの輸送 (2016/4・10・2017/4)</p> <p>集まった電動車いすは、修理機材や部品と共に専門業者に依頼し、コンテナで3回輸送した。コンテナへの積み込みは当会が行い、輸入手続き、通関手続き、パキスタン国内陸送手配は、供与先が行った。</p> <p>3. 電動車いすの整備・調整 (2016/6～2017/6)</p> <p>日本から届いた電動車いすは、整備して提供するものと、予備パーツとしてパーツ取りするものに分類した。電動車いす提供にあたり必要な備品であるバッテリー、クッション、充電器については、パキスタン国内にて調達した。</p> <p>4. 引渡し (中止)</p> <p>当初、ラホール市・イスラマバード市において関係者、障害者、その家族、政府関係者を招いて引き渡し式を実施する予定であったが、爆破事件やテロが頻発し、やむを得ず渡航を急遽見送ることとなった。</p> <p>5. 電動車いすの配布 (2016/7～2017/6)</p> <p>中古電動車いすの提供を希望する障害者には、(1)社会参加への意欲、(2)家族の介助状況、(3)障害状況、(4)社会や障害当事者への影響力と発信力、について事前調査を行い、優先付けを行った上で配布リストを作成し、Milestone、Saayaの2団体はリストに従って障害状況に応じた電動車いすの配布を行った。</p> <p>供与先 (現地 NGO)</p> <p>① Milestone (ラホール市) 供与台数：75台、部品取り40台</p> <p>② Saaya (イスラマバード市) 供与台数：20台</p> <p>6. 配布後のモニタリング、修理 (2016/6～2017/6)</p> <p>配布をおこなったものに対しては、当会及び現地のカウンターパートであり電動車いすの直接の供与先である2団体により、定期的に使用状況と電動車いすの動作確認のモニタリングを行う。その他、破損や故障により不具合が生じた場合は、さくら車いすプロジェクトのアドバイザーの下、Milestone及びSaayaにより、その都度修理が行われた。</p>

(3) 達成された成果

1. 電動車いすの収集

電動車いすの送付台数：135台（計画：100台）

当会の活動報告を行い、イベント等で車いす提供をよびかける広報活動を行った結果、障害当事者、障害者団体、車いす業者、特別支援学校PTAからご協力いただき、計画をうわまわる数の車いすを収集することが出来た。

事業終了後も提供のお申し出をいただいております、今後も継続的に電動車いすを収集していく。

2. 電動車いすの輸送（2016/4・10・2017/4）

集まった電動車いすを専門業者に依頼し、3回の輸送を行った。1回目の輸送では、政府のテロ対策強化と補装具の輸入に関する政府方針変更の影響でコンテナ到着後もカラチ港に1ヶ月留め置きされ、また一部の車いすはその3ヶ月後にラホール到着となってしまった。その後、2回目、3回目の輸送については現地でスムーズな受取が可能となった。

3. 電動車いすの整備・調整（2016/6～2017/6）

届いた電動車いすは、パーツ取りと提供用に分類し、動作確認、クリーニングを行い、障害・体形に応じてコントローラー、フットレスト、ヘッドレスト、クッションの製作・提供などのフィッティング調整を行った。障害状況に応じてクッション素材を組み合わせることで適切な座位を保持することで、二次障や障害の進行を予防することにも効果が認められた。また、体圧を分散させることで、褥瘡の予防にもつながった。

その他、必要に応じて、変圧器の組み込み、バッテリー、タイヤの交換を行った。

4. 電動車いすの配布（2016/7～2017/6）

中古電動車いすの提供を希望する障害者95人（ラホール75人、イスラマバード20人）に対して、障害・性別・年齢・職業等の基礎上加え、事前に(1)社会参加への意欲、(2)家族の介助状況、(3)障害状況、(4)社会や障害当事者への影響力と発信力、(5)外出・社会参加状況について事前調査を行い、配布した。（計画：80人）

提供3ヶ月後を目途に配布した全員に対し、(1)電動車いすの利用状況、(2)社会参加・外出状況、(3)満足度、(4)特記事項についてモニタリング調査を行った。

◎調査数：95人

【供与者の属性・基礎情報】

- －性別：男66名、女性29名
- －職業：職業あり28名、学生29名、無職38名
- －年齢：～10代：31名、20代：22名、30代：19名、40代：12名、50代：3名、60代以上：8名
- －障害：脳性まひ：12名、脊髄損傷：22名、筋疾患：34名、ポリオ：13名、その他：14名

【モニタリング調査】

- －外出回数：増加した：92名、変わらない：3名、
- －生活の変化：大きく変わった：73名、少し変わった：13名、変わらない：9名
- －特記事項：学校に通い始めた（含、おんぶや抱きかかえなど家族

	<p>のサポートで移動していたのが、学校に自由に行けるようになった) 28名、仕事を始めた(含、仕事のための移動が楽になった) 20名、自由に自分の意思で動けるようになった 25名、その他 21名。</p> <p>上記調査の結果、配布後も電動車いすが非常に有効に活用されており、多くの人の外出・社会参加に貢献していることが確認された。</p> <p>5. 配布後のモニタリング、修理 (2016/6~2017/6) (*一部自己資金) 配布したものに対しては、提供 1 ヶ月後に Milestone、Saaya の担当者より、動作状況の確認が行われた。 またユーザーからの希望により随時、メンテナンスを行った。 パキスタンの電圧の不安定さと停電の影響でバッテリーと充電に不具合が生じるケースがあった。また道路環境が整備されていない地域が多いためタイヤのパンク修理の対応も多く見られた。 またジョイスティック部分の破損、チルト、リクライニング機能の修理等、高度な技術が求められる場面においては、当会の技術者が 2016 年 7 月・10 月、2017 年 4 月の 3 回現地入りし (一部自己資金)、Milestone、Saaya に対して現地で技術指導を行った。またクラウドを活用し、修理状況・プロセスの確認、共有をはかり、随時、技術指導を行う対応を行った。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>当会がパキスタンへの電動車いす提供を開始してから約 10 年が経過したが、当事者が電動車いすで街を出歩くようになった結果、街のバリアフリー化が進み、ショッピングセンターやホテルの入口にスロープがつくなど、街のバリアフリー化が進んでいる。</p> <p>一つの大きな成果として挙げられるのは、2016 年 10 月に、カウンターパートである Milestone による粘り強い働きかけの結果、パンジャブ州に 200 台のノンステップバスが導入されることとなったことである。電動車いすの提供を受けて、毎日 8km の道のりを電動車いすで通い続けていたアリ・ハムザ氏 (筋ジストロフィー) は、現在、バス通勤が可能となった。このように電動車いすの提供は、障害者一人の移動権を保障するだけでなく、街のバリアフリー化にも大きく寄与する。本事業では、啓発活動の効果や施策の影響を考慮し、首都であるイスラマバードにおいて長年活動を続ける Saaya を供与先と選定したが、この実績をもとに他州でのノンステップバス導入など、バリアフリー化が促進されることが期待される。</p> <p>来年行われる総選挙でも、立候補者が電動車いす補装具給付制度を公約に掲げるなど、障害者施策が認識・焦点化されてきたことも一つの成果であると言える。</p> <p>パ</p> <p>供与先である Mileston、Saaya はすでに基本的な修理技術を習得しているため、本事業終了後も電動車いすは長期にわたって活用され、上位目標達成のため活動は継続される。ンジャブ州では、障害学生への電動車いす給付制度の開始が発表されたことも一つの成果である。今後、この制度が確実に実施され、メンテナンス部門において、カウンターパートであるマイルストーンがその業務の委託が受けられること。ゆくゆくは、その対象者が広がり電動車いすの給付制度ができることが期待される。</p> <p>今後も補装具給付制度等の各種制度化に向けて、パキスタン政府やラホール市への協議・交渉に対し助言・アドバイスを行い、政策立案の面でも協力を続けることで、今後もさらなる障害者の社会参加を目指し活動を継続していく。</p>